
私は

横山 楓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私は

【Nコード】

N8656Y

【作者名】

横山 楓

【あらすじ】

私になった異世界の人が私は嫌いで、羨ましい。

手違いで亡くなった子に故意に消されそうになる少女は何を思うのか。

(前書き)

ぐっだぐだです。

ぜひ、読む何かと思い、生温かい目で見ることがを推進します。

私はここでどうすればいい？

何をすればいい？

笑顔も涙も何も生まなくなつた私の心で。

何も救つてはくれない神のもとで。

誰に請えばいい？

何を請えばいい？

ああ、誰か。

誰か。

もう、つらいのです。

美しく、さまざまの花が咲き乱れ、計算されつくされた建築物。

美しかった。

今は、

ひどくひらめしい。

たとえここが、

神々のいる地だとしても。

「ど、……じ、……と」

言葉がかすれかすれにしか出てこない。

「ですから、貴女はもうすぐ消滅します。こちらの手違いですぐに消滅されませんでした」

「

」では、これで

声ももう出ない。

ただ、困惑と深い深い絶望感が私を襲った。

意味が、わからない。

どうして？

『異世界で神様が人を間違っつて亡くならしてしまいました。お詫びに神様は異世界に住む人にならせてあげました』

間違っ て亡くならせた？

じゃあ、私は故意に亡くならせたものじゃないの？

お詫びに異世界に住む人に？

私は？私の人生はどうなるの？

どうして。

どうして。

なぜ、私なの？

ねえ、神様。

確かに、私は他の人が見ればつまらない日々を過ごしていたかも
しれません。

毎日部屋で一人本を読み、叔父との二人暮らしも微かにぎくしゃく
しておりました。

それでも

月に一度部屋を出て、大きな木の下で涼みながら本を読む。

親に置き去りにされた私を拾ってくれ、育ててくれた叔父との気ま
ずくも心地よい沈黙。

少しの会話でも交わしたその日はひそかに浮き足立っていました。

違うのです。

部屋で本を読む。こんなに広く何も無い部屋で、何も感じないこと
じゃありませんでした。

部屋の香り、かすかな物音、窓からの日差し、すべて違う。

よく考えたら何もない日々。

私にとっては、すべてだったのです。

特別でもない容姿、声。

気まずい関係。

私が詰まった部屋。

「ぜ・・・ぶ、ぜん、ぶ」

寒くなった季節。

「あれ、は」

はかれる白い息。

「わたし・・・っ」

部屋から見える近所の人たち。

「私だったのよ・・・！」

やめて

「なん、でっ・・・」

私で私じゃない貴女が

「どつしてよぉ・・・っ！」

やめて。

私のようにふるまいながら、自分を生きる貴女が。
私にはできないかった事を、簡単にする貴女が。

私のことも考えずこんなことをした神様が。

私ときずかず貴女に惹かれる周りも。

大嫌い。

そして何よりも

羨ましい。

囚われたような私は貴方達を見ている。

私に貴女がなっているのに。

私は貴女のようになりたかった。

周りに愛される貴女は、私を知ったらどうなるでしょう。

貴女を愛する周りは、私を知ったらどうなるでしょう。

消滅しない私を、神様たちは戸惑っております。

高位神様が私を知りいろいろな感情をうつしました。

一番は罪悪感をうつしていました。

部屋も何もない部屋から、家具もある部屋に移されました。

それでも

それでも

こんなことをするなら戻してと思ってしまうのです。

高位神様たちが計り知れないほどの罪の意識に苛まれていても。

貴方の気持ちが分からないように、私の気持ちも知らない癖にと思
ってしまうのです。

ここに居れば己がひどく汚い存在に思えます。

七つの大罪すべてが重く私にのしかかるようです。

消えてしまいたい。

自分さえも嫌で。

私の存在はないのに、ある。

私はなんなのでしょね。

消えても誰もきかず。

腫れ物に触るように扱われ。

消えてもかまわないのに。

消えることさえもかなわない。

私は？

私は

(後書き)

感想やコメントいただけたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8656y/>

私は

2011年11月25日23時51分発行